

| | | | |
|--|-------|-------|-----|
| 対象入学年度 | | 対象学科名 | |
| 2014 | | 建築学科 | |
| 科目名 | | | |
| 建築設計III Architectural Design III | | | |
| 前後期 | 実施期 | 区分 | 単位数 |
| 前期 | 3年次前期 | 必修科目 | 2 |
| 担当教員 | | | |
| 鱈坂徹、柴田晃宏、鷹野敦、小山雄資、西久志、朴光賢 | | | |
| 代表者教員連絡先等 | | | |
| 授業の概要（目的と内容） | | | |
| <p>本科目では、公共施設に代表される中規模建築を対象として、その機能や構成を理解することを目的とする。課題では、建築を取り巻く様々な社会的問題を認識しながら、様々な機能や要求を統合した具体的な建築空間の計画・設計を行う。そこでは、個人と集団との関係や大人数で利用する空間のあり方に重点をおいた設計、その実現のために環境・構造の基礎的知識を応用した空間的な提案を行うことを求める。</p> <p>以上を目的として、様々なスケールの模型と図面を用いたエスキスや、口頭発表に対する質疑応答が担当教官との間で数週間かけて行われ、最終的な成果を魅力的なプレゼンテーションボードや模型として表現する。</p> | | | |
| 受講学生が達成すべき目標 | | | |
| <p>受講学生が達成すべき目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 様々な機能や要求を統合させて具体的な建築空間にまとめあげる中規模建築の計画・設計ができるようになること、 2) 2年次までに学んだ環境・構造の基礎的な知識を利用して、建築的な提案に結びつけていくことができること、 3) 模型や図面を用いながら、設計案についての応用的なプレゼンテーションを口頭で行うことができるようになること、である。 | | | |
| 成績の評価基準 | | | |
| <p>各課題毎に成果物を提出する。1) 具体的な建築空間にまとめることができるか、2) 環境・構造の基礎的な知識を利用して建築的な提案に結びつけることができるかどうか、の達成目標については、期限内に提出された成果物で評価する。3) 模型や図面を用いた応用的なプレゼンテーションが口頭で行えるかどうか、の達成目標については、各回のエスキスでの発表で評価する。評価の重みについては、1) が40%、2) と3) が30%ずつである。</p> | | | |
| 授業計画 | | | |
| <p>本年度は、以下に掲げる3つの課題を予定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区設計：7.5週 この課題では街区スケールで計画・設計を行うことによって、単なる複合施設の計画ではなく、街づくりにまで視野を広げた建築設計の進め方について把握すると共に、建築が地域・社会に対して担うべき役割や、地域・社会の問題に対する回答を建築的な提案にまとめあげていく方法について学ぶ。 ・教育施設：7週 この課題では、教育施設をとりあげ、小集団のための空間単位の計画とその連結の手法、施設が地域や社会に対して担うべき役割を学ぶ。そのなかで特に日照、通風、エネルギー利用の問題など、環境配慮の基礎的知識を建築設計に応用することを、教員とのコラボレーションによって学ぶ。 | | | |
| 授業時間外学習 | | | |
| 参考書・教科書 | | | |
| 必要に応じて演習時に紹介する。 | | | |
| オフィスアワー | | | |
| 毎週水曜日9:00～12:00 | | | |
| 修得しておくべき科目・必要な予備知識 | | | |
| <p>設計基礎演習I、設計基礎演習II、建築設計I、建築設計IIの各科目を修得しなければ本演習は受講できない。また、本演習の単位を取得しなければ、卒業設計を受講することができない。</p> | | | |

学科の学習・教育到達目標との関連

学習・教育目標における本科目の分野は、建築の高度な知識・能力(D1)で授業時間は35時間、自主的・継続的学習能力とエンジニアリング・デザイン能力(E1)で授業時間は32.5時間です。尚、本科目は建築学科エンジニアリングデザイン教育の「デザイン教育コア科目」です。

授業形態

アクティブ・ラーニング

アクティブ・ラーニング(「その他」の内容)

アクティブ・ラーニング(授業回数)